

第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県決勝大会

2018年11月23日

会場:ドルフィンズアリーナ

■男子決勝

愛知工業大学名電高等学校	3	31	第1セット	29	0	星城高等学校
		25	第2セット	21		
		32	第3セット	30		
			第4セット			
			第5セット			

山口 (3年)	長谷川 (2年)	先発メンバー	大前 (1年)	沢村 (3年)
岡野 (3年)	澤田 (1年)		水野 (3年)	森本 (3年)
藤巻 (3年)	鈴木(智) (3年)		山崎 (1年)	松田 (3年)
犬飼 (2年)	伊東 (3年)	リベロ	山本 (2年)	西村 (2年)

<戦評>

6回連続で同じ顔合わせとなった決勝戦は、愛知工業大学名電高等学校(以下名電)が速攻と時間差を軸とした攻撃で星城高等学校(以下星城)を降し、2年連続で全国大会への切符をつかんだ。特に3年連続でセッターとしてこの舞台に立った藤巻が、自慢のアタッカー陣を操りながら、自らもサーブやブロック、ツーアタックにより要所で得点を奪い、身を挺してのレシーブも見せるなど、キャプテンとしてふさわしい活躍を見せた。

第1セットは、序盤に両チームが3点以上の連続得点を奪い合ったが、以後はサイドアウトの連続となった。中盤、名電は14-17から相手の連続ミスで1点差とすると、17-19からは岡野のCクイックと藤巻のツーアタックで追いついた。そして終盤、相手のアタックミスにより23-24と1点差に追い上げたところで、名電・北川監督が2回目のタイムアウトを取得。続くラリーでは再び相手のアタックミスでデュースに追いついた。その後、相手のセットポイントを4回しのぐと、28-28で藤巻が相手の時間差攻撃をブロックで仕留めて逆王手。1点は許したものの、最後は29-29から鈴木(智)がこのセット自身5本目となる時間差攻撃を決め、続くラリーでは同じく鈴木(智)が二段トスをレフトから決めて、名電がセットを先取した。

第2セットは、名電・藤巻がサーブでチームに貢献した。7-6、14-15、22-21の三度サーバーとして臨み、その全てでブレイクに結びつけた。特に三度目は25点まで一気に達する連続得点の起点となり、25点目はこのセット2本目となるノータッチサービスエースを相手のフロントローに狙い打ちで決めた。

第3セットは星城が逆襲、3点以上の連続得点を三度奪って24-20と4点リードでセットポイントを迎えた。しかし、背水の陣となった名電はここから追い上げを見せる。星城の連続ミスで22-24とすると、岡野が相手レフトのプッシュをブロック、続いて山口がレフトから相手ブロックの間を抜く強打を放って同点に追いついた。第1セット同様相手のセットポイントを四度しのいだ名電が、29-30から鈴木(智)の時間差攻撃で同点、相手のミスでマッチポイントとすると、最後は長谷川がレフトからの強打で締めくくった。

森本の高い打点からのアタックや松田・水野らのサイド攻撃を中心に、幾度となくリードする展開に持ち込んだ星城だったが、名電の速攻と時間差を絡めた攻撃と高いブロックからの切り返しに苦しめられた。特にセットポイントまで先に達した2セットで、あと1点を取り切ることができなかった点が悔やまれる結果となった。

第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県決勝大会

2018年11月23日

会場:ドルフィンズアリーナ

■女子決勝

岡崎学園高等学校	1	18	第1セット	25	3	誠信高等学校
		25	第2セット	18		
		19	第3セット	25		
		23	第4セット	25		
			第5セット			

鈴木(望) (3年)	早川 (3年)	先発メンバー	三留 (1年)	大野 (3年)
鈴木(夢) (1年)	勝又 (2年)		縄野 (3年)	北山 (2年)
上村 (2年)	石原 (2年)		宮瀬 (3年)	土井 (3年)

古谷 (3年)	山田 (1年)	リベロ	田島 (3年)	壇上 (1年)
------------	------------	-----	------------	------------

<戦評>

誠信高等学校(以下誠信)が、第1シードの岡崎学園高等学校(以下岡崎学園)を降し、悲願の初優勝を遂げた。マッチポイントの場面では、誠信への追い風が大きな塊となって膨らんだような異様な雰囲気となったが、勝利が決まった瞬間にそれが大きく弾けて中から出てきた初優勝の喜びに包み込まれた。1年前はこの場で涙をのんだ誠信だったが、今回は試合終了と同時に選手・スタッフ・応援団ともども歓喜の涙を流し合った。

第1セットは、誠信が両サイドを中心としながら時折センターセミを交えた攻撃を展開し、岡崎学園はそれらをブロックで迎え撃つ形で中盤までせめぎ合った。誠信は、14-15から宮瀬の攻撃と北山のブロックで3連続得点を奪って抜け出し、17-16からの6連続得点で完全に優位に立った。この連続得点では、宮瀬のサーブで相手を崩すと、北山と土井がアタックを2本ずつ決めた。宮瀬の左手からのジャンプサーブは順回転を伴って相手のレフト側に逃げていく独特の球筋で、23点目は相手のレシーブを弾くサービスエースとなった。最後、25点目は三留がレフトから二段トスを打ちきった。

第2セットは岡崎学園が序盤に7連続得点で11-8と逆転し、以後は誠信の追撃を許さなかった。レフトの上村がアタックで5得点、ライトの鈴木(夢)もサーブとアタックで合わせて5点奪い、活躍を見せた。

第3セットは誠信のサーブが走り、好レシーブも多く、二段トスをアタッカーが果敢に打ちきるなど、チームの持ち味を存分に発揮した。特に、セットの前半、レフトから4本のアタックを決めた三留、センターから3本決めた縄野がチームの原動力となった。誠信は一度も追いつかれぬまま終盤を迎え、最後はセンター北山がレフトからの二段トスを左手で厳しいコースに打ち抜いて、セットカウントを2-1とした。

第4セットは、中盤まで相手レフトに苦しめられた誠信だったが、13-17から北山のアタックとブロック、土井のサービスエースで1点差とすると、18-21からも宮瀬のアタックとブロック、相手のミスで3連続得点を奪って同点に追いついた。その後、レフト早川にトスを集める岡崎学園の攻撃をしのぎ、同点のまま最終局面を迎えた。誠信は23-23から宮瀬のライトからの強打が相手ブロックを弾いてマッチポイントを奪うと、最後は相手のアタックがエンドラインの後方に落ちて勝負が決した。岡崎学園は、セット終盤になって攻撃がレフト頼みになり、効果的に決められなかった点が惜しまれた。